

杉並区教育委員会 宛

子供園名 杉並区立堀ノ内子供園

子供園長氏名 大塚 玲華

令和8年度教育課程について（届）

このことについて、杉並区立子供園の管理運営に関する規則に基づき下記のとおり
お届けします。

記

1 教 育 目 標

(1) 子供園の教育目標

幼児一人ひとりが主体的な遊びや生活を通して豊かな体験を積み重ね、様々な人や友達
と関わり、健康で人間性豊かな子どもに育つことを目指し、次の目標を設定する。

- ◎いきいきとあそぶ子
- こころゆたかな子
- よくかんがえる子

(2) 子供園の教育目標を達成するための基本方針

- ① 幼児が自発的な活動としての遊びに夢中になって取り組む中で、周囲の事物や人と
多様な関わり方をし、充実感や満足感を味わいながら生きる力の基礎が培われるよ
うにする。
- ② すすんで体を動かし多様な動きを経験したり、生活に必要な習慣や態度を身に付け
ていったりし、健康な心と体が育まれるようにする。
- ③ 園庭や近隣の豊かな自然に触れ、心を動かす中で、自然に対する畏敬の念、親しみ、
愛情や科学的な見方・考え方の基礎などが培われるようにする。
- ④ 幼児一人ひとりが自分らしさを出しながら、生き生きと園生活を送る中で、互いを
尊重し受け入れ合う関わりができるようにする。
- ⑤ 保育者や様々な友達と関わる中で、自分の思いを出しながら、自己の存在感を味わ
ったり、一緒に活動したりする楽しさを味わう体験を重ね、人と関わる力が育まれ
るようにする。
- ⑥ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼稚園教員と小学校教員
が共に子どもの成長を長期的な視点で捉え理解し、それぞれの教育活動を充実させ
るとともに、交流活動を通して幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図る。

2 指導の重点

(1) 教育課程編成、実施に関わる指導の重点

- 3歳児 ○保育者と信頼関係を築いていく中で、基本的な生活習慣を身に付け、安心して自分を表現して様々な遊びに取り組んだり、学級の幼児と一緒に過ごしたりする楽しさを感じられるようにする。
- 4歳児 ○保育者との信頼関係を基盤とし、自ら身近な環境に興味や関心をもって関わり学級の中で自分らしさを発揮して生活や遊びに満足感を味わうとともに、友達と関わる楽しさを感じられるようにする。
- 5歳児 ○園生活を通して自分に自信をもち、遊びや生活の中で、友達と関わりながら自分の力を発揮し、相手と自分の思いや考えを調整し協同して目的を達成する充実感や達成感を味わえるようにする。

(2) 環境の構成

- ① 教材や活動の理解を深め、幼児の姿や発達に基づいた環境構成を行うことを通して、幼児が興味をもって環境に主体的に関わり、関わり方や意味に気付き、取り込もうとして試行錯誤したり考えたりしながら夢中になって遊ぶことができるようにする。
- ② 幼児が自ら体を動かしたくなるような活動や環境を意図的・計画的に工夫して取り入れ、学級全体の活動と自ら選ぶ遊びを往還しながら幼児が繰り返し楽しみ、多様な動きを経験することができるようにする。
- ③ 長期的な見通しをもち、幼児が遊びの中で必要な経験を積み重ね、経験したことが行事に生かされるとともに、行事を通して遊びがさらに豊かになるようにする。
- ④ 園庭や近隣の自然環境を意図的・計画的に設定、活用し、幼児が身近な虫や植物、自然現象に出会い触れる中で心を動かし、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われるようにする。
- ⑤ 保育者が互いの学年の活動や育ちを理解し、幼児一人ひとりと関わることで、幼児が異学年との関わりを通して遊びをより豊かにしたり、憧れや思いやりの気持ちをもったりできるようにする。
- ⑥ 発達に応じて ICT 機器を補完的に活用し、直接的な体験では得られない新たな気付きを得たり、体験で得られたものを整理したり共有したりするなど、幼児の生活体験がより豊かになるようにする。
- ⑦ 大宮小学校との合同研修や事前事後の打ち合わせを通して、幼児の発達や姿を共有、理解し、互惠性のある交流活動が行われるようにする。
- ⑧ 保護者や地域の園の教育への参加、資源の活用を通して、幼児期の教育に関する理解が深まり、幼児がより豊かな生活体験を得られるようにする。

(3) 特に重点を置いて指導する内容等

① 安全教育

- 学校安全計画や幼児の実態に基づき、全教職員が連携し適宜環境の整備や安全指導を行うことで、幼児が園内外の安全に気を付け、状況に応じた行動をし、自分の命を守る大切さを感じられるようにする。
- 日々の安全指導や、看護師と連携した保健指導を通して、幼児が自分や友達の体を大切にしたり、健康な生活を送ったりすることができるようにする。

② 特別支援教育

- 特別支援教育コーディネーターを中心に園内委員会を開催し、個別指導計画の作成や情報共有を図り、教職員や家庭、関係機関が協力、連携することで、幼児が自分らしさを出しながら、集団の中で全体的に育つことができるようにする。

③ その他

- 長時間保育を担当する保育者や子供園保育職と、学級担任が緊密な連携を図りながら、幼児の生活の連続性を意識した関わりや、遊具、活動の設定を行う。
- 全教職員が幼児を中心に園の運営について考え、共有し、自己の役割を果たしたり連携をしたりし、より良い園運営と働き方改革につながるようにする。